

- 特別展を終えて……②③
- 交流展を終えて……④
- 企画展を終えて……⑤
- 映像記録作成事業……⑤
- 教育普及事業……⑥⑦
- 博物館NEWS……⑧
- INFORMATION……⑧



〈特別展 宋西より〉
「宋西禅師坐像（複製）」（岡山県立博物館蔵）



〈企画展 美作の名宝より〉
「絹本着色胎藏界曼荼羅図」（美作市 長福寺蔵）



〈特別展 japan 一漆の世界—より〉
「逸見東洋作 堆漆麟鳳龍香合」（個人蔵）



〈交流展 土佐の水とくらし 一四万十川の漁を中心に—より〉
展示風景

特別展「栄西」

会期：平成25年4月19日(金)～5月19日(日)



広報ポスター

臨済宗の開祖、そして喫茶を伝えた茶祖として名高い栄西(1141～1215)は永治元年に備中国、現在の岡山県西部で生まれました。栄西の出身である賀陽氏は代々、吉備津神社(岡山市)の神官を務める氏族でした。

平成26年は栄西の800回忌にあたることから、本展覧会ではこれを記念し、国宝1件、重要文化財14件を含む68件の文化財から、その生涯と事績にスポットをあてました。

3章構成で栄西の事績を紹介

今回の展覧会は3章で構成しました。第1章の「栄西と岡山」では故郷である備中国や、その隣国である備前国などに残される資料から、若き日の活躍を紹介しました。



展示風景(第1章)

ここでは吉備国際大学での修理を終え、初のお披露目となった『明庵栄西像』をはじめとする栄西の肖像を展示しました。続いて栄西の出身である賀陽氏が神官を務めた吉備津神社に残される『行道面』、『女神像』を展示し、平安時代における吉備津神社の信仰について紹介しました。他にも栄西が密教を学んだ大山寺(鳥取県)に伝わる、『銅造観世音菩薩立像』は異彩を放つ存在でした。加えて若き日の栄西が修行したことで知られる、日應寺(岡山市)に伝わる『木造不動明王立像』と『木造毘沙門天立像』は生き生きとした表情が印象的で、鎌倉時代の作であることが窺えました。

続く第2章「禅宗を開く」では誓願寺(福岡県)や建仁寺(京都府)に伝わる資料から、禅僧として目覚めた栄西について紹介しました。ここでは国宝『誓願寺建立縁起』を展示しました。誓願寺は一切経の渡来を待つ間、栄西が滞在先として選んだ寺院です。この資料は栄西が自ら記した同寺の由来書きであり、この中で自らを「備前州日応山入唐法師榮(栄)西」と名乗っていて、誓願寺へ来る以前の根拠地が、日應寺であったことを示しています。続いて栄西の主著である『興禅護国論』から、栄西の伝えた禅宗の教えを紹介しました。栄西はこの中で文治3(1187)年、中国へ渡り、臨済宗黄龍派を受け継ぐ禅僧、虚庵懷敞のもとで禅の修行に励んだこと、臨済宗の免許皆伝を受けて

建久2(1191)年に帰国し、禅宗の布教を始めたこと、しかし延暦寺から訴えが出され、朝廷から禅宗布教を停止する命令が出された経緯をまとめています。さらに禅宗がこれまでの日本の仏教を否定するものではなく、坐禅を行い、仏教の戒律に従った生活を行うことで、成仏できると説いています。

最後の第3章、「仏法復興を目指して」では、建仁寺や東大寺(奈良県)などの資料から、栄西が晩年になした様々な事績を紹介しました。ここでは『唐墨筆献上状』という栄西直筆の書状や、『喫茶養生記』などを展示しました。建仁2(1202)年、栄西は京都初の禅院である建仁寺を開き、その後、建永元(1206)年になくなった重源(1121～1206)の後を受け、二代目の東大寺勸進職に任命されました。『唐墨筆献上状』はその際に東大寺に墨や筆を献上したことを記した資料です。一方、『喫茶養生記』は栄西が著した日本初の茶の専門書で、建保2(1214)年に鎌倉幕府第三代将軍の源実朝(1192～1219)に本書と思われる本と茶を、一緒に献上したことで知られます。最後に、現在でも建仁寺で行われている『四頭茶礼』で使われる茶道具を展示しました。その作法は宋式の喫茶文化の影響を残していると考えられ、茶祖・栄西の教えを受け継ぐものです。

栄西の実像を考える関連行事



原田正俊氏による記念講演会

会期中の関連行事として、岡山大学大学院社会文化研究科教授の久野修義氏と関西大学大学院教授の原田正俊氏による講座「栄西」を開講しました。両先生とも、様々な切り口から栄西の実像に迫る内容であり、好評を得ました。また、宝福寺(総社市)の小鍛冶元慎住職を講師にお招きして開催した「親子で学ぶ喫茶養生記」は、親子向けのお茶会で、参加者一同で茶祖・栄西の教えを体験しました。

展覧会を終えて

本展では、絵画・墨蹟・彫刻・文書や工芸品など、様々な文化財から栄西の実像を紹介しました。会期中は5,796名の方に御来館いただきました。今後も、栄西や法然など岡山に生まれた宗教者と彼らを取り巻く文化・歴史を紹介していきたいと思っています。

(学芸員 和田剛)

特別展「j a p a n - 漆の世界 -」

会期：平成25年10月11日(金)～11月17日(日)

豊かな自然に恵まれた我が国では、古くから漆の文化が栄えました。そして、先人たちの美意識と匠の技によって、芸術性を備えた伝統工芸に高められ、「j a p a n」が日本の漆芸品を意味することからもわかるように、世界的に高く評価されています。



広報ポスター

本展は、郷原漆器復興25周年・備中漆復興20周年記念事業、瀬戸内国際芸術祭2013関連事業として実施したもので、岡山県と香川県を中心に、原始古代から現代にいたる我が国の漆文化と漆芸の名品150件を一堂に展示しました。

4章構成で漆の世界を総合的に紹介！

第1章「j a p a nと呼ばれた日本の漆」では、我が国の代表的な漆芸技法である蒔絵を中心に、各時代の優品によって日本漆芸の流れを紹介しました。とくに、南蛮漆器、紅毛漆器、幕末・明治の輸出漆器などを通じて、展覧会のタイトルである「j a p a n」が、かつては日本の漆芸品を意味していたほど、西洋で高く評価されたことを紹介しました。展示会場では、漆黒の器面を蒔絵や螺鈿で華やかに飾った漆芸品の数々が、来館者を魅了していました。

第2章「岡山・香川の漆芸」では、岡山県と香川県に伝来する名品と、近世から近代にかけて活躍した名工を紹介しました。

岡山県では、旧大名家を中心に優れた漆芸品が伝来し、とくに岡山藩主池田家の「綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度」(重要文化財・林原美術館蔵)は、その豪華絢爛な蒔絵装飾で圧倒的な存在感を放っていました。この他、足守藩主木下家、備中松山藩主水谷家・板倉家、津山藩主森家・松平家に加え、塩田王と呼ばれた児島の野崎家の伝来品を紹介しました。また、近代岡山を代表する工芸家である逸見東洋を取り上げ、木彫・竹彫・漆彫の作品を通じて、その卓越した彫技を紹介しました。



展示風景(第1章)

香川県では、讃岐漆芸の祖として名高い玉楯象谷について、高松藩主松平家の伝来品など代表作によって紹介しました。さらに、象谷の弟である藤川黒斎をはじめ、象谷一門およびその流れを汲む漆芸家たちの作品を通じて、讃岐漆芸の伝統を概観できるよう展示しました。

第3章「郷原漆器と備中漆」では、岡山県の伝統的な漆文化として郷原漆器と備中漆を紹介しました。

郷原漆器については、戦前の郷原漆器と共に、登録有形民俗文化財に指定されている製作用具を展示しました。合わせて、復興した現代の郷原漆器も展示し、その特徴を紹介しました。備中漆については、漆掻き道具の展示と共に、漆掻きの様子を記録した写真やビデオによって、備中漆の伝統とその特徴を紹介しました。さらに、岡山県の漆文化を語る上で欠かせないものとして、木地師を取り上げました。展示では、手挽き轆轤や木地師文書などを通じて、漆とも深く結びついた木地師の世界を紹介しました。

第4章「漆の美と匠の技」では、岡山・香川で活躍する伝統工芸作家の作品から現代漆芸の美と技を紹介しました。香川県は讃岐漆芸の本場に相応しく、重要無形文化財保持者5名・香川県指定無形文化財保持者10名(物故者含む)と全国有数の漆芸大国です。岡山県は難波仁斎氏と山口松太氏が備中漆を活かした独自の作風で全国的に高い評価を受けており、第3章で紹介した木地師の伝統から木工芸の作家層も厚いです。これらの作家作品と共に、重要無形文化財保持者の磯井正美氏・太田儔氏・川北良造氏・北村昭斎氏が備中漆を使って制作した作品を展示し、備中漆の美と復興事業の意義を紹介しました。

漆の魅力を伝える関連行事

会期中の関連行事として、重要無形文化財「蒔絵」保持者の室瀬和美氏による記念講演会をはじめ、岡山県指定重要無形文化財「漆芸」保持者の山口松太氏による特別解説、香川県漆芸研究所工芸指導員の松原弘明氏による漆芸の実演解説、郷原漆器の館館長の高月国光氏による木地師の実演解説を開催し、作家ならではの興味深い内容を聞いたり見たりすることができました。また、子ども漆芸体験教室「キラキラ★うるしプレートをつくろう!」は、「山口松太きゅう漆の会」会員の指導により、子どもたちが蒔絵を体験して自分だけの漆塗りプレートをつくるもので、多くの家族連れで賑わいました。



室瀬和美氏による記念講演会

展覧会を終えて

本展では、美術工芸だけでなく、考古・歴史・民俗など、様々な分野をもつ博物館ならではの切り口で、漆の世界を総合的に紹介し、会期中5,255名の方に御来館いただきました。今後も、こうした取り組みを継続し、漆文化の普及啓発と博物館の社会的役割を果たしていきたいと思っております。

(学芸員 佐藤寛介)

交流展を終えて

平成25年度岡山・高知文化交流事業 「土佐の水とくらし—四万十川の漁を中心に—」

会期：平成26年1月1日(水・祝)～2月16日(日)

昨年度から始まった岡山・高知文化交流事業の2年目は、高知県立歴史民俗資料館をはじめ高知県内各所の協力を得て、土佐の豊かで特色のある民俗文化を紹介しました。

土佐の民俗いいとこどり！

展覧会は「四万十川の漁」を中心に、土佐を代表する民俗文化である「祀り」「絵師金蔵(絵金)」「土佐和紙」「鯉」「郷土玩具」の「水」に関わる6つのテーマを40件の資料で構成しました。「祀り」では、古墳時代の古津賀遺跡祭祀遺構(四万十川



広報チラシ

深い緑の山々の間を澄んだ水が流れる四万十川下流の風景。川舟は現在も現役で、奥には岩間沈下橋も見える。

支流後川の水辺)を須恵器大型甕などの出土遺物で復元し、川辺にくらす人々の、水害がなく豊作を祈る気持ちに触れました。四万十川右岸に鎮座する高岡神社(四万十町)の秋祭り御神幸に巡行する、弥生時代の銅矛五口(根々崎遺跡出土)も展示しました。「絵師金蔵(絵金)」では、高知城下生まれで、藩の御用絵師をつとめ、後に城下を追われた絵金が土佐の海沿いの町に残した芝居絵屏風(レプリカ)を紹介しました。その力強い筆致と劇的な構成、強烈な色彩がお客様を魅了しました。また、絵金が嘉永7(1854)年に土佐を襲った南海大地震を、戯画風に表現した「絵本大

変記」は、当時の震災の様子を知る上でも好資料でした。

「土佐和紙」では、「奇跡の清流」と呼ばれる仁淀川流域の豊かな水と良質な楮や三椏などを原料に、古くから栄えた手漉き和紙の製作道具や現在もこの地域(いの町・土佐市)に受け継がれている伝統的な和紙を紹介しました。0.03mmと極めて薄く、かつ強靱で美しい「土佐典具帖紙」(国指定重要無形文化財)の前では、多くのお客様が立ち止まり見入っていました。

「日本最後の清流」として有名な四万十川は、高知県北部に源を発する本流の長さ196kmの四国第一の一級河川です。

「四万十川の漁」では、185の豊富な魚種が確認された



紙漉き体験

四万十川で、現在も行われている伝統的な漁法で使用される漁具を展示しました。竹などの身近な材料で丁寧に作られた漁具は、自然から糧を得てきた人間の知恵と技の奥深さを教えてくれました。

「鯉」では、古来より鯉の好漁場である土佐の鯉節作りの道具や土佐年中行事図絵などから鯉と土佐の人々の深い関わりを知っていただけたのではないかと思います。

「郷土玩具」では、凧絵に絵金の影響が見える土佐凧、鯉捕りたちの観察眼が生きている鯉車・鯉船・鯉車を紹介し、土佐ならではの玩具を楽しんでいただきました。

土佐の魅力を五感で味わう関連行事

関連行事として、高知県立歴史民俗資料館顧問(前館長)宅間一之氏による記念講演会・いの町紙の博物館のご協力による紙漉き体験・ボランティアによる展示ガイドを行いました。宅間氏は、「四万十川の流れと土佐のくらし」と題して土佐の人々とくらしを長年の研究に基づいて様々な視点から歴史的に紹介されました。紙漉き体験では、土佐和紙のミニ講座の後、はがきを漉きました。会期中の4日間、当館ボランティアが春から勉強してきた成果を生かして展示ガイドを行いました。今回は、高知県立歴史民俗資料館のボランティア「カルサポ」の皆さんも来館して、初めて合同でのガイドを実施しました。土佐弁も聞こえる展示室は、まさに人とモノとの交流の場となりました。



宅間一之氏による記念講演会

展覧会を終えて

本展は6,758名の方に御来館いただき、「海に接した土佐の人たちの生活がよくわかり楽しい思い出となった」「四万十川の漁具の多様さに驚いた」などの感想が寄せられました。観光スポットとして有名な土佐の各地に生きる人々の知恵や技術そして祈りに今回の展示でふれていただけたのではないかと思います。また、同時期に岡山の漁の一つである児島湾の干潟漁についての展示を行い、両県の風土・文化の違いの一端をご覧いただけたことも、文化交流事業ならではの醍醐味の一つであったのではないのでしょうか。

(学芸員 信江啓子)

交流展 「備前焼—薪と炎が織りなす土の美—」

会期：平成25年10月19日(土)～12月8日(日)

高知県立歴史民俗資料館では、「備前焼—薪と炎が織りなす土の美—」が開催されました。本展では、岡山県立博物館が誇る備前焼の名品をはじめ、高知県の遺跡で見つかった備前焼など、約80件が展示されました。また、会期中には重要無形文化財保持者である伊勢崎淳先生の講演会や展示解説、ワークショップが行われ、多くの参加者でにぎわいました。

(学芸員 重根弘和)



展示風景 竹村豊氏撮影

企画展を終えて・映像記録作成事業

平成 25 年度 企画展 美作国建国1300年記念事業 「美作の名宝」

会期：平成 25 年 7 月 25 日（木）～9 月 1 日（日）

「備前国の英多・勝田・苫田・久米・大庭・真嶋の六郡を割き、美作国を置く」

平安時代初期に編纂された国の歴史書『続日本紀』の、和銅 6 (713) 年 4 月 3 日の記事には、美作国の成立が記されています。本展覧会は、平成 25 年が美作国の建国 1300 年という節目の年を迎えることから、考古、仏教美術、獅子頭・古



狩野久氏による記念講演会

面、及び津山藩と津山洋学という四つのテーマを設けて、美作地域にゆかりのある国や岡山県指定の重要文化財を中心に展示しました。山間部の多い美作国では、密教や修験道の要素をもった資料がみられることや、出雲街道を介した播磨との文化的つながりを想起させる資料が見られるなど、当地域の特徴的な歴史と文化に触れていただきました。

会期中には、奈良文化財研究所名誉研究員の狩野久氏に「美作国の成立事情」という演題で記念講演をお願いしました。地域的特性や時代背景など、様々な角度から美作国の

成立について御説明いただき、106 名の方が古代の美作国に思いを馳せました。

また、スケッチを通して詳しく観察し、いっそう深く文化財の魅力を

感じてもらうことを目的に「美作の名宝をスケッチしよう！」を開催しました。7 月 31 日と 8 月 9 日の 2 日間で合わせて 30 名が参加してくれたこの行事には、岡山県立総社南高等学校美術工芸系 1 年生のみなさんと、岡山県立大学デザイン学部及び大学院の 3 名にスケッチアドバイザーとしてお手伝いしていただきました。参加者はアドバイザーの上手な絵を見せてもらったり、直接描き方を教えてもらったりしながら作品を仕上げました。じっくり観察した美作の名宝に、これまで以上に興味を持ったようです。展覧会期間中 4,119 名の方にご来館いただきました。

(副参事 竹原伸之)



名宝をスケッチしよう

吉備の国文化遺産映像記録事業



現地でのロケの風景

昨年度より三カ年計画で進めている吉備の国文化遺産映像記録作成事業です。岡山県立博物館では岡山の歴史と文化の情報発信を柱に、一年間を通じて、展示やさまざまな教育普及事業を行っています。特別展、企画展も現在では多分野から岡山の歴史と文化をとらえ、時代の変化にも対応し、近年では学校対象の事業も増えました。学校現場へ出向く「出前授業」と、館内で行う「館内授業」のいずれも好評で、多くの学校に利用されています。

吉備の国文化遺産映像記録事業では、岡山県立博物館所蔵の資料を中心に撮影し、関連する県内の史跡の映像と合わせて、3～5 分の映像を作成しています。

主な内容は博物館所蔵の資料の紹介および、代表的な展示テーマに基づき、岡山の歴史と文化を概観できる

ものを構成の柱としています。一年毎に 10 のテーマを企画し、構成した映像記録の内容は、岡山県立博物館で年間で展示する各分野、民俗や工芸、備前焼等のテーマに基づいた代表的な館蔵資料の紹介とそのテーマに関わる歴史を最新技術の鮮やかな映像によって紹介しています。また、来館される方に向けての内容や児童、生徒向けと使い分けができるように、キャラクターが登場し、案内するバージョンも作成しています。これらすべて、岡山県立博物館のホームページから配信



博物館内での撮影風景

しており、いつでも視聴可能です。今年度の岡山の歴史と文化の 10 のテーマをぜひご鑑賞ください。

(主任 内池英樹)

教育普及事業の概要

平成25年度は新たにジュニア学芸員講座を加え、児童・生徒、一般また高齢者の方々にさまざまな教育普及事業を実施しました。

館内授業・出前授業

本館で実物資料に触れ、展示の見学を行う「館内授業」、学芸員が実物資料を持参し、小中学校で実施する「出前授業」は大変好評で、今年度も多くの学校に利用いただきました。展覧会にあわせての見学や、テーマに基づいた授業を中心に、博物館のバックヤードの見学も行っています。お気に入りの文化財を一点探ることができるように、10～15分の時間を設けて、子どもたちが館内を自分自身の興味に基づいて見て回れるように工夫もしました。考古や民俗の分野、備前焼を中心に、出前授業も多数実施し、年間に27校の利用がありました。



考古分野の授業



特別展を活用した授業



刀・甲冑の授業



展示解説(平常展)



特別展「栄西」展示解説

学芸員による展示解説

毎週土曜日の午後2時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。展覧会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明しています。今年度も毎回多くのお客様にお越しいただいています。

中学生職場体験

今年度もチャレンジワークとして岡山市内の中学校2年生(10校23名)が博物館業務を体験しました。文化財を守り、来館者へわかりやすく見てもらうように展示する仕事が、自分たちが考えていたよりも大変だったようです。



刀剣の取扱い実習



古文書の取扱い実習

博物館実習

8月には学芸員をめざす県内外の大学生15名が博物館業務の実習と、講演会など博物館活動を支援する実習に取り組みました。資料の扱いや来館者への対応などに真剣に取り組んでいました。

(主任 内池英樹)



甲冑の取扱い実習



講演会の支援実習

吉備の国ジュニア歴史スクール

「吉備の国ジュニア歴史スクール」も5年目を迎え、今年度は岡山の民俗芸能「備中神楽」「横仙歌舞伎」の2コースで、より体験学習を重視した内容としました。参加校は、美咲町立加美小学校・美咲中央小学校5年生(計55名)、瀬戸内市立今城小学校6年生(31名)でした。

第1日目は、各民俗芸能の保存会の方々にご協力いただき、衣裳着付・化粧・楽器などの体験を行い、第2日目は、博物館で民俗芸能にかかわる実物資料に触れながら授業を受け、あわせて展示室も見学しました。



第1日 奈義町での「横仙歌舞伎」の化粧体験



第2日 博物館での「面浄瑠璃」の面の観察

この2日間の成果をもとに、各学校で新聞作りや学習発表会を通して学習のまとめを行いました。今年度の事業の様子は報告集にまとめて県内すべての小学校へ配布しています。



備中神楽コース 新聞による発表



横仙歌舞伎コース 演劇による発表



25年度報告集



記念品の下敷き

博物館講座

県民を対象にした「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座でスタンダード・スペシャルの2コースを開講しています。前者は、学芸員が平素の研究成果を博物館資料に基づいて講義するもので、6月(全8講座:火曜・木曜開講)を130名が受講されました。



スタンダードコース

後者は、各研究分野の第一人者である講師による、より専門的な講座(7月~10月)の月1回(全4講座)を108名が受講されました。



スペシャルコース

いきいき講座

博物館と高齢者福祉の現場との連携事業として平成22年度から実施している「いきいき講座」。この講座は、羽釜や竿秤など懐かしい民具資料を使い、体験や思い出を語り合う「回想法」を取り入れたものです。今年度は「いきいき館内講座」「いきいき展示見学」を開設しました。公民館講座の一環として来館された地域の高齢者への講座を実施しました。

(学芸員 信江啓子)



いきいき館内講座

ジュニア学芸員講座

「ジュニア学芸員講座」は、本館の新たな教育普及事業として今年度から始めたもので、中学生・高校生が「ジュニア学芸員」として博物館の仕事を実際に体験し、本物の文化財を通して岡山県の歴史と文化を学ぶ講座です。今回は19名が参加し、8月6日(火)~8日(木)の計3日間にわたり、様々な分野の文化財の取り扱いや、史跡見学・発掘調査・博物館行事などを体験しました。参加生徒たちは全員熱心に取り組んでくれ、多くのことを学んだようです。今回の講座が、将来の学芸員や博物館ファンを育む機会になることを期待しています。

(学芸員 佐藤寛介)



文化財(日本刀)の取扱体験

寄贈資料紹介

今年度の特別展「japan-漆の世界-」の開催に伴って、漆のすばらしさを見事に表現した作品4点が、図録等でも多大な御尽力を賜りました高山雅之氏(郷原漆器生産振興会会長)から当館に寄贈され、特別展において来館者に披露されて大きな話題を呼びました。

4点とも重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝に認定されている伝統工芸作家の人たちが平成20年に採取された備中漆を使って翌年までに制作したもので、それぞれ備中漆の特性を活かし、得意な技法と材を用いて作品の魅力を引き出した作品揃いです。それらの作者名及び作品名を以下に紹介しておきます。お礼申し上げます。

(副館長兼学芸課長 三宅克広)

- ・^{きんま}蒔薨千里同風如意(磯井正美 重要無形文化財「蒔薨」保持者)
- ・^{らんたい ひしろう ひとし}籃胎蒔薨香合「飛翔」(太田 儔 同「蒔薨」保持者)
- ・^{こうはく な らでんほん}紅白菜螺鈿盆(北村昭斎 同「螺鈿」保持者)
- ・^{けん ほなしがんそうはち うめもん}猷保梨嵌装鉢 梅紋(川北良造 同「木工芸」保持者)



籃胎蒔薨 香合「飛翔」



紅白菜螺鈿盆

INFORMATION

●●●●● 平成26年度の展覧会予定 ●●●●●

特別展 「山田方谷」

会期 平成26年5月23日(金)～6月29日(日)

特別展 池田綱政 300 回忌記念 「護国山曹源寺」

会期 平成26年10月10日(金)～11月16日(日)

企画展 「岡山の城と戦国武将」

会期 平成26年7月31日(木)～9月7日(日)

交流展 岡山・高知文化交流事業 「戦国大名 宇喜多氏と長宗我部氏」

会期 平成27年1月16日(金)～2月15日(日)



池田綱政坐像
(岡山市 曹源寺蔵)



山田方谷肖像 平木政次筆
(個人蔵)

岡山県立博物館だより 第78号

発行日/平成26年3月1日

発行者/岡山県立博物館 館長 田村 啓介

〒703-8257 岡山市北区後楽園 1-5

TEL : 086-272-1149 FAX : 086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



この用紙は古紙・再生紙を
含んでいます。